

ご挨拶

ドナル・ドイル先生、司祭叙階 50 周年、まことにおめでとうございませう。

お元気でこの日を迎えられたことを、私たち教え子はとても嬉しく誇りに思います。その喜びを分かち合いたく、きょうのひとときを企画いたしました。

いつも、どんなときも、穏やかに優しく励ましてくださるドイル先生に心より感謝しています。

これからも、神様とともに歩むドイル先生のためにお祈りいたします。

発起人 中村 晃輔 (上智大学 2013 年卒)
金谷 春美 (上智大学 2003 年卒)
鈴木 真理子 (上智大学 1982 年卒)
山田 知子 (上智大学 1979 年卒)

年表

- 1931年10月11日 アイルランドにて誕生。
- 1948年 高校生時代、 フランシスコ・ザビエルと出会う。
- 1951年9月 イエズス会に入会。Emo で2年間勉強をする
(第一及び第二修練)。
- 1953年 フランスの Laval と Aix en Provence 大学にてフランス語やフランス文学などを学ぶ。
- 1955年 アイルランドの Tullabeg にて、哲学を学ぶ。
- 1958年7月31日 日本に向けて、ナポリ港を出港。3週間かけて、香港へ。
- 9月3日 横浜港に到着。横須賀市田浦の栄光学園内にある日本語学校で2年間日本語を学ぶ。
- 1960年 栄光学園にて英語を教える(中間期時代)。
- 1961年 父、帰天。
- 1962年夏 アイルランドへ帰国。Milltown にて神学を学ぶ。
- 1965年7月29日 司祭、叙階。
- 1967年 第三修練のため、広島へ。
- 1968年 広島学院にて英語を教える。
- 1971年 広島学院修道院長任命。
- 1972年 広島学院理事長任命。

1977年 東京へ。石神井神学院院長任命。上智大学にて、一般英語を教え始める。

1981年 管区長秘書として3年間務める。上智大学四谷キャンパスにて、一般英語を教え始める。

1985年 上智大学外国語学部英語学科の専任講師になる。

1986年 学生を引率して、アイルランドツアーを始める。

2001年 イエズス会入会50周年

2002年3月 最終講義

4月 上智大学名誉教授。

2013年 最後のアイルランドツアー。

2015年 司祭叙階50周年。アイルランド大統領殊勲賞授与。

ドナル・ドイル先生



栄光学園元教諭 青木 利道

ドイル先生、司祭叙階 50 年の金祝、おめでとうございます。

先生は本当に長い間、英語教育をとおして、日本の青少年に人格的成長の基となる「神の国」の種を蒔いてくださいました。その種は今、実を結びつつあり、卒業生たちは喜びのうちに社会への奉仕に力を尽しています。

栄光学園で一緒に働いている時の楽しい思い出が心に浮かびます。栄光において多くの同僚の教員や生徒たちと出会えたこと、とくに、外国から来られた多様な国籍の司祭、神学生がたに会い、多くのことを学べたことは私の人生の宝です。

とくに、お二人のアイルランド人に出会えたことも、忘れえない喜びです。そのお二人は言うまでもなく、ブルカ先生（上智ではパーク先生）とドイル先生です。ラッシュ先生も一緒でしたでしょうか、私の家で楽しい時を過ごしたことも懐かしい思い出の 1 ページです。

ブルカ先生の、「アイルランドは世界の中心、アイルランドの英語こそ真の英語、アイルランドは美しい国」という言葉にひかれ、私自身、2002年の夏にアイルランドを訪れ、とくに南部地方を廻りました。ダブリン空港に着いた時、まさにアイルランドが中心に置かれている地図を見てビックリしました。ここからきているのか、と納得しました。そして美しい国を味わいました。

ドイル先生、私も6年前に金婚式を迎えました。ちょっと古いですが、その時の写真を添えます。今は、13人の孫を持つ、じいさん、ばあさんです。

私は間もなく86歳を迎える高齢者になりました。加齢にともない、自由に歩き回ることには不自由を感じています。でも、脚以外は元気で、神のお恵みの内に、所属教会で聖書講座、入門講座を担当し、横浜教区典礼委員会の一員として活動し、梅村司教が理事長を務める学校法人の理事として働いております。神のお呼びがあるまで、精一杯奉仕したいと努めています。

先生もお元気に、これからも日本の若者のためにご活躍ください。先生と先生のお仕事の上に、神のお恵みと祝福を祈っています。司祭叙階50年、心よりお喜び申し上げます。

ドナル・ドイル神父様

栄光学園同窓会会長 菱沼 徹臣（17期）

栄光学園同窓会会長の菱沼徹臣です。

同窓生一万人を代表して祝辞をお送り申し上げます。

司祭叙階 50 周年、誠におめでとうございます。大変長い間、ご苦労さまでした。また、この度はアイルランド大統領より **Presidential Distinguished Service Award for 2015** を受賞されたそうで、併せて、おめでとうございます。

先生が確立されたアイルランドスタディプログラムから優れた学生が育ち、彼らが日本とアイルランドとの間のビジネスを育み、交流を促進し、そのことが大統領に認められたことに他なりませんね。

栄光 OB はアイルランド出身の先生方（ブルカ先生とドイル先生）より「アイルランドが世界の中心にあること」を教わりました。未だ信じている人がいるかも知れませんが、少なくとも栄光 OB は誰もがアイルランドを親しみを感じる国として心の真ん中に置いています。

どうかドイル先生にはこれからも日本とアイルランドの関係が一層親密になるようご尽力をお願いします。

栄光 OB 一万人はドイル先生の末永いご健康とご活躍をお祈りいたします。

D. ドイル先生への感謝

広島学院 12 期生同窓会 十二一会（じゅうにひとえ）

石川 哲大



広島学院 12 期生・十二一会 還暦ツアー（豊田市にて） 前から 3 列目中央がドイル先生

ドイル先生、司祭叙階 50 周年おめでとうございます。

我々広島学院 12 期生が中 2 の時 (1968 年) にドイル先生が English 担当で赴任されました。その後 1975 年まで教鞭を執られましたので、12 期生は卒業までずっとお世話になった学年となりました。当時は神父の先生方がたくさんおられましたが、その中でもドイル先生の授業はひとときわ “ noble ” なイメージで爽やかでした。言うことを聞かないやんちゃな中学生に対しても、いつも穏やかな口調で諭され、声を荒げたり怒った顔を見せたりされた記憶はありません。

当時、広島学院には清友寮がありましたが、舎監を務められたドイル先生のことを謂わば「同じ釜の飯を食った」家族同胞のように我々は勝手に思っています。中 1 から高 3 までの男ばかりの生徒たちと寝食を共にして生活を見守る毎日は決して楽なものではなかったはずですが、これも難なく “ cool ” にこなされました。また、ウィンブルドン仕込みの華麗なテニスを披露され、マラソン大会も生徒と一緒に走られるなど、スポーツでは “ active ” な一面を示されました。

私は国内留学で東京に居た間に上智大学 SJ ハウスにドイル先生を訪ねたことがあります。家内と 2 歳だった長男を連れて行って、近くのレストランで食事（確か、ロシア料理だった？）をしましたが、ドイル先生が子供の頬を何度も撫でて可愛がってくださったことをよく覚えています。その時に、東京での同窓会の話をするとうち「もちろん、行きますよ！」とご快諾をいただきました。我々広島学院 12 期生の同窓会は十二一会（じゅうにひとえ）と銘打って、35 年以上にわたり年に 2 回ずつ広島での会合を続けていますが、関東一円に約 1/3 の同級生がいるので東京でも年に 1 回ずつ関東十二一会があります。ドイル先生にはお忙しい中をほぼ毎年ご出席いただき、昔話をしたり近況を伝え合ったりで楽しい時間を過ごしています。2014 年秋には「60 歳になった十二一会の仲間たち、日本の中心に集合！」ということで、愛知県豊田市にて（それも直撃の台風の中で！）12 期生還暦記念同窓会を開

催しましたが、心の広いドイル先生は翌日に東京での仕事があるにもかかわらず、笑顔で出席してくださいました。

ドイル先生が滞日 50 年の節目に書かれた『Fifty Years in Japan 1958-2008』の冒頭に「“encounter=出会い”という言葉が好きです」とあります。なぜ日本に？という問いにはいつも「あなたに会いに来たのです」と答えられるそうですが、我々 180 名はドイル先生との出会いによって、人生航海の羅針盤を得ることが出来たと心より感謝しています。

ドイル先生、いつまでもお元気でいてくださることが我々の願いです。広島学院 12 期生を学生としても社会人としても優しく育てていただき、本当にありがとうございました。



マラソン大会で力走されるドイル先生



関東十二一会で「喜寿のお祝い」（八重洲・酒席いづみや）

おめでとうございます

田所 功（広島学院 1974 年卒、上智大学 1978 年卒）

ドナル・ドイル神父様、司祭叙階 50 周年おめでとうございます。ドイル先生との思い出は、私が広島学院の高校 2 年生の時、生徒会を作った時のことでしょうか。当時、広島学院には、代表者会議という生徒の会議体はあったのですが、執行部となる生徒会はありませんでした。そこで「生徒会を作りましょう」と何度も校長室を訪れて、ロバート・ラッシュ校長とドナル・ドイル理事長と話をさせていただきました。その後、無事に生徒会を立ち上げることができたのですが、その時お二人からよく聞いた言葉は「まわりの人のために働く人になりなさい（"I hope you will be a man who works for others."）」でした。この言葉、今でも私の座右の銘として大切にしています。

上智大学に進学し、3 年生の時にカトリックの洗礼を受けました。その後は、大阪の企業に就職し、国内外を転々として、ドイル先生にお会いすることはあまり無かったのですが、今から 9 年前、企業を早期退職して、カトリックの国際援助組織であるカリタスジャパンで働き始めてからはお会いする機会も多くなりました。広島学院でドイル先生からいただいた精神を大切にして、途中 28 年間しっかり民間企業で勉強し、その経験を基に日本のカトリック教会を通じて人々のために働かせてもらっています。今振り返ってみると、これも神様の計画だったのかもしれませんが、少しは「まわりの人のために働く人」になれましたでしょうか？

Dear Fr. Doyle

田所真理子（上智大学1977年卒）

あなたは、出会った人から「先生（神父様）は、なんのために日本に来られたのですか？」という質問を受けると、“あなたに会うためですよ”と優しくにっこり笑って答えられます。この答えで来日以来どれほど多くの日本人のハートを射抜かれてきたのでしょうか？!

この数年、私自身が S.J. House での受付の仕事を通じて、上司としての“Fr. Doyle”に毎週お会いし、よくその言動を観察（？）する機会に恵まれ、その答えが決して冗談やお世辞ではない、ということがよくわかります。きっと「主は、生まれる前から私を召し母の胎内にいる時から私の名を呼ばれた。」（イザヤ書 49：1）という聖書の言葉を大事に、一人ひとりとの出会いを大事にしていらっしゃるのでしょう。実際、S.J.House に来る宅急便のアルバイト学生、教会の庭掃除の方なども、「名前」で呼んで親しく話し接していらっしゃいます。そして、今日もあなたと出会った私達を思い出し、名前を呼んで祈ってくださっているあなたに感謝！

また、Fr. Doyle、あなたはどんな時も必ず最後には微笑んで“Thank You!”の一言を仰います。この短い Magic Word 一言で、どれほどの人に癒しと喜び、やる気を与えてこられたかご存知でしょうか？

私自身の体験では、仕事でご期待にうまくお応えできなかつたり、失敗したと落ち込んだりしているとき、そして、あなたのご気分も損ねたと感じるときも、最後には“Thank you, Mariko!”と声をかけて下さる、時には暖かい手で握手をしてくださる。ご期待にお応えできると、更に褒めて下さる

ので、また「頑張ろう！」と思います。あなたの“Thank You!”に改めて感謝！

最後に、Fr. Doyle、あなたは、広島学院時代からお世話になった功と私の33年前の、また昨年のお嬢の、親子二代の結婚式を司式してくださり、家族ぐるみでお世話になっています。神様が備えて下さったこの出会いとご縁に本当に感謝です。まだまだ神父様に学ばせていただきながら、一緒に歳を重ねていきたいです。神父様の益々のご健康ご長寿をお祈りいたします。

Father Donal

KENSUKE YAMADA (上智大学 2008 年卒)

Congratulations and sincere best wishes on your golden anniversary.

Your words have been guiding light throughout. Cheers and abundant blessing for your 50 years.

ドイル先生

梶原健司（上智大学1998年）

ドイル先生、司祭叙階 50 周年、本当におめでとうございます！ 私は上智大学外国語学部英語学科にて、先生の授業を受けたことが出会いでした。ちなみに私は全くもって勉強熱心な学生ではなかったため、先生の教師としての顔よりも、チャーミングなドイル先生の顔をよく見聞きしておりました。自分の周りには、私のような学生達、反対に勉学に励む優秀な学生それぞれおりましたが、一様にドイル先生はどちらの学生からも慕われ尊敬されていました。別格でした。そんな中、単位が足りない私の友人（競馬好きで、もちろん勉強熱心ではない方です）がドイル先生のお部屋へ嘆願に伺ったことがありました。部屋から出てきて私に「ドイル先生、競馬めっちゃくちゃ詳しいよ！あの人凄い！」と単位のことまで忘れて解説してくれたことを今でも覚えております。20 年以上前になりますが、先生の間人としての幅の広さを知った最初のきっかけです。その後も前職の先輩達が社長以下役員を勤める上場企業になぜか社外役員でお名前を見かけその先輩達からドイル先生のお話を伺ったりと、司祭という私の既成概念を常に揺るがし続ける本当に大きな存在です。

半世紀もの間、司祭としてとても多くの方に広く深く愛を注がれてきたことと思います。そして先生の薫陶を受けた私の友人達も日本だけでなく世界中で、この世界を少しでも良いものにしようと活躍しております。私も微力ではありますが、先生に教わったものとしてこの身を少しでも役立てようと頑張っ参ります。ドイル先生、これからも多くの人を導いてくださりますよう心から祈念しております。改めまして司祭叙階 50 周年おめでとうございませう。